

4年間の任期を振り返って

11月12日をもって、議員の任期が満了となります。そこで、任期を振り返り、各会派からのメッセージをお届けします。

自由民主党議員団

平素からわが自由民主党議員団にお寄せいただいております区民の皆様のご支援ご厚情に対して心から感謝申し上げます。

わが区議団は、区政の推進にあたっては常に区民の目線に立ち、多様化する区民ニーズを的確に把握し、区政に反映させるため議会活動を活発に展開し、その実現に最大限努力して参りました。

顧みますと、4年前の平成17年は、バブル経済崩壊後、ようやく企業収益が改善し、景気回復が期待された年でありました。しかしながら、昨年のアメリカに端を発した世界同時不況により景気は急激に後退し、区民生活は再び厳しい状況に追い込まれているものであります。

こうした中、区政においては、「区民と創る元気なかつしか」を基調とする新たな基本計画が、平成18年にスタートし、本計画の実現に向けて策定された「経営改革大綱」と「改革パワーアッププラン」に基づいて、日々生じ

るさまざまな課題に対処するべく、事務事業の見直しをはじめとした行財政改革が着実に進められて参りました。

その具体的な取り組みとしては、区民サービスの提供体制の見直しにより、スポーツ施設・文化施設・産業施設・観光施設・工場ビル・公共駐車場などに指定管理者制度を導入しました。経費削減の効果は、開館日の拡大や公演の増加など区民サービスの向上に充てました。

また、「民間活用指針」に基づき、区職員が担っていた業務について公民の役割分担を再点検し、民間事業者やNPO等の積極的な活用を進めました。区立保育園運営の委託や、給食調理委託の拡大、組織の統廃合等の執行体制の見直しにより、限りある行財政資源を計画事業や重点事業に振り向けました。

こうした区の経営改革の取り組みに対し、我が区議団は強力な支持・支援をするともに、基本計画に盛り込まれた区民にとって重要な施策・事業を、青木区政とともに、確実に実現いたしました。

葛飾区議会公明党

区民の皆様には、日頃より葛飾区議会公明党に對しまして、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

現在、わが国は、急速に少子高齢化社会、そして、人口減少時代を迎え、国民生活の安定と持続可能な社会保障の再構築が、求められております。

こうした状況下で、葛飾区では、平成18年度に新たな基本計画を策定しました。すなわち「区民と創る元気なかつしか」を基調に「賑い」「安全」

では、認証保育所や民設民営の認可保育園の整備、分園や学童保育クラブの設置、病後児保育の拡大や病児保育の導入、妊婦健診の充実、子育て家庭の経済的負担の軽減など、教育振興ビジョンの推進として、学力向上の取り組み、小中一貫教育の実施、特別支援教育の推進、学校地域応援団の設置など。

「健康で元気に暮らせるまち」では、介護予防事業の充実、障害者への支援、食育推進、がん検診事業の充実、総合型地域スポーツクラブの育成など。

「安全、安心、元気なまち」では、災害への対応として荒川洪水ハザードマップの作成、小中学校の耐震化、地域安全マップの作成、防災活動拠点の整備など。

「賑わいあふれる元気なまち」では、かつしか観光プランの策定、葛飾ブランド「町工場物語」、伝統工芸職人弟子入り支援事業、雇用・就業マッチング支援事業の実施など。

また、特筆すべきは、基本計画の極めて大きなプロジェクトである「大学誘致」において、東京理科大学の誘致が決定したこと。現在、緑豊かな公園に囲まれたまちづくりとともに、

「安心」「快適」「協働」「経営」の視点から戦略的な政策を掲げ、大学の誘致構想をはじめ、文化とスポーツのまち構想、コミュニティ・ビジネスの創出など区民に新たなライフスタイルを創造し「元気な葛飾」を築くための事業を、「元気満10(てん)プロジェクト」としてまとめたところです。

この間、葛飾区議会公明党は、常に生活者の視点に立ち、多様化する区民のニーズに応えるため、青木区政を中心に支え、「区民生活を守り抜く」ため全力で活動してまいりました。特に、保育所の待機児童ゼロをめざ

大学との連携による地域の活性化など、平成25年の大学開学に向けて取り組んでいるところです。

最後に、この前例のない厳しい時代にあっても、また国の政権が変わったとしても、わが自由民主党議員団は葛飾区における責任政党として、区政の発展と住民福祉の一層の向上にまいります。

今後とも、区民の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

日本共産党葛飾区議会議員団

4年前、「中学3年生までの医療費を無料に」と公約をかけた訴えました。区民のみならず、いよいよ運動をすすめて、いま実施されています。

妊婦健診の助成を国の言う5回までと議会でも声もありましたが、「14回すべてに」と主張し実現しました。また私たちは、2年に1回区民アンケートにとりくみ、みなさんの声を直接あつめ、生かしてきました。カープミラーをはじめとした交差点の安全対策など、身近な問題にもとり

らせる街づくりを推進したことを評価され、23区で高齢者が一番暮らしやすい区として1月7日付「日本経済新聞」で、紹介されました。一方、昨年の9月に発生した世界的な金融不安は、実体経済にも深刻な影響を与え、区内の中小企業の経営は、大変厳しい状況に陥りました。その後、国や地方自治体挙げての緊急経済対策で、最近、ようやく回復の兆しは見えたものの、まだ先行きは不透明で、継続的な対策を実施しています。こうした厳しい面がある中で、平成25年には、東京理科大学の葛飾キャン

民主党 葛飾

この4年間にわたる区議会での会派運営の基本方針は、常に区民目線に立ち、役所の仕事に対して応援し評価すべきはしっかりと後押しや評価をし、疑問点は鋭く追及し、更に問題点は厳しく指摘し、修正や政策提言をしていくというものでした。目まぐるしく変わる時代の変化に対応できる柔軟性ある視点を持つことを心掛けてまいりました。

一方、目を外に据えようと所属党派民主党は、今年、都議会議員選挙にお

くみ、ご要望にこたえてきました。三菱製紙跡地への大学誘致で、区は「大学固有の土地及び建築物に支援をしない」と言っていたのに、53億円を支援をおこないました。アンケートを通じて区民の意志は、賛成17%、反対45%と、納得していないことを明らかにしました。

そして今、慈恵医大青戸病院の放射線ガン治療施設をはじめとした医療体制の充実、特養ホームの増設や75歳以上の医療費無料化、認可保育園や学童保育クラブの増設、就学援助の改善など、各分野での区民要求実現に全力でとりくんでいます。

これからも、「住民が主人公」の区政へとりくんでまいります。パスが、新宿六丁目に開設することが決まりました。そして、本年10月には葛飾区の新中央図書館がオープンし、いよいよ葛飾区も新しい時代を迎えようとしています。

区内人口も着実に増えつつあり、交通アクセスも改善され、より多くの人が集まることと思えます。これからも、葛飾区議会公明党は、区民の方々の声を生かして、誰もが住んで良かったと思える葛飾区を皆さんと一緒に築いていきたいと思います。

葛飾区民連合

いでは2議席をいただき、更に国政、衆議院選挙においても、初議席をいただき政権交代実現の年となりました。今後も民主党の活動にご期待いただきたいと思えます。

会派の政策として福祉と危機管理を一貫して取り組んだ4年間である。行政の危機管理体制の弱点、限界が露呈され当初から政策提言してきた新型インフルやBCP(業務継続計画)への注目が集まった。BCPが区の政策としてスタートしたことは大きな成果であり、行政改革へと繋がることも認識されたことは区の前進である。地方主権への準備が着々と進むことを期待する。

無所属

構造改革と言う名の下に推し進められて来た「原理資本主義」の暴走で、基盤の弱い庶民は大きな痛手を受けた。こうした中でも区政における税金のムダづかい、不正な行政の執行は跡を絶たず、特に入札制度における骨抜きや偽装行為が横行し、公正な入札は埋没してしまつたのかとの感否めない。こうした中で草の根市民運動は区政に正義を打ち立てるため奮闘してきた。

無所属

区は税金のムダが多い事を議会で区長に指摘した。私立大学に53億円拠出、三菱跡地に公園用地を260億円で購入し、未執行の土地が34億円、土地を買収する事に未だに終始している。困っている特養、認知症宿泊、老健施設、高齢者問題、障がい者対策、子育て、学校教育、新宿、細田、奥戸地区の交通網の整備に即予算を使うべきだ。実現に全力投球したい。